

水辺空間をめぐる  
観光と住民生活の共存可能な政策論の構築

代表 野田 岳仁（法政大学 現代福祉学部 准教授）

〔研究報告要旨〕

本研究の目的は、地域の湧水や洗い場を観光資源に活用したアクアツーリズムとそれらを利用してきた住民生活を両立させる政策論を構築することである。

アクアツーリズムとは、湧水や洗い場といった地域の水資源を観光資源に活用し、環境保全や地域の活性化との両立をめざす新しいツーリズムのことであるが、対象となる地域の湧水や洗い場は、住民の生活資源でもあるため、それらを観光利用すると住民と競合関係や対立関係になることが少なくなく、どのように地域住民の生活と観光客の利用を両立させるのかが政策的な課題となっている。現状ではその解決策として、①観光客に”マナーを守る”ことを要請する取り組み、②行政は住民の生活環境を守るため、観光客向けの湧水施設をつくり、住民の利用と観光利用を空間的に区切ろうとする政策的対応をしている。しかしながら、観光客向けの湧水施設は誰も利用せず、放置されているのが現状である。

本研究では、アクアツーリズムに取り組む複数の現場でのフィールドワークを通じて、地域の湧水や洗い場には、その利用と管理をめぐって“ローカルなルール”と“社会的な権利”が存在することを明らかにした。さらにこの

“ローカルなルール”と“社会的な権利”を守ることを観光客はむしろ好意的に歓迎し、アクアツーリズムの魅力を醸成していることも明らかにした。地域住民の暮らしに根付いた水場を観光客にも開放するならば、この“ローカルなルール”と地元住民の保有する“社会的な権利”を奪うことなく観光客にも開いていく必要がある。

以上の知見を踏まえ、本研究では、従来型の“マナーを守る”観光とは異なる“ローカルなルール”を守るアクアツーリズムの政策論を提示した。